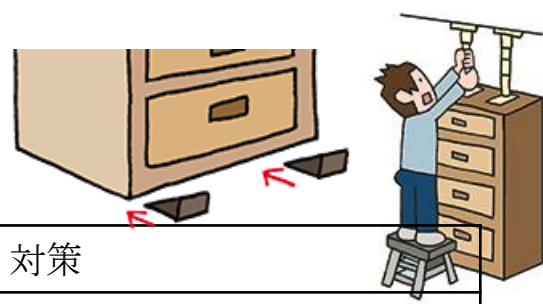


# 地震



## 1 自宅内の確認・事前対策

### (1) 家具

区分	確認・対策
食器棚	1 扉が容易に開かないよう <b>金具</b> 等を付ける。 2 食器が飛び出さないよう、 <b>滑り止めシート</b> 等を敷く。 3 <b>突っ張り棒、下部の詰め物</b> 等による転倒防止
和ダンス・本棚	<b>突っ張り棒、下部の詰め物</b> 等による転倒防止
暖房製品	1 <b>耐震自動消火装置</b> の有無を確認 2 付近に <b>可燃物</b> を置かない。 <b>カーテン付近</b> に置かない。
照明器具	1 電源コードの懸吊タイプは補強金具等で複数個所固定 2 蛍光管はカバーを付けるか、耐熱テープで固定
カーテン	<b>防火加工、難燃加工</b> の物を使用する。
窓ガラス	内側に <b>飛散防止フィルム</b> を張るか <b>養生テープ</b> を貼る。
テレビ	<b>低い位置</b> に配置



### (2) 屋内配置上の留意事項

- ① **通路・出入口周辺**に転倒や移動しやすい家具等は配置しない。
- ② **寝室や座る場所**には家具を配置しない。（配置する場合は低いもの）
- ③ 地震でガラス破片等の散乱による受傷防止のため**靴等**を**寝室**に置く。
- ④ 住居内に物を置かない**安全な部屋**や**スペース**を**確保**する。

（地震の揺れを感じた際、当初の避難場所として活用するため）

## 2 地震発生時の行動




### (1) 自宅内での安全確保






区分	行 動
安全確保	揺れがおさまるまで、頑丈な机、テーブルの下にもぐる。
火の始末	1 小さな揺れを感じたら、直ちに <b>火の始末</b> をする。 2 大きな揺れを感じたら、無理せず、揺れがおさまってから、ガスコンロ、ストーブ、ファンヒーター等の <b>火気類の火の始末</b> をする。
避難経路確保	<b>玄関ドア及び窓</b> を大きく開放し避難できるようにする。（揺れにより、建物が歪むとドアが開閉不能となることもあるため）




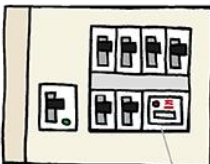


(2) 外出中における屋内での安全確保

区 分	行 動
商業施設等	<ol style="list-style-type: none"> <li>商品棚の転倒や商品の落下、ガラス破片に注意する。</li> <li>揺れがおさまるまで、壁や柱に身を寄せ、カバンや上着等で頭を保護する。</li> <li>火災が発生したらハンカチ等で口や鼻を覆い避難する。 煙が多い場合は、<b>這うようにして足元の空気</b>で呼吸しながら避難する。</li> </ol> 
エレベータ内	<ol style="list-style-type: none"> <li>エレベータが自動停止しない場合は、<b>全ての階のボタン</b>を押して停止した階で外に出る。</li> <li>閉じ込められた場合は、<b>非常ボタン</b>や<b>インターホン</b>で外部に連絡し救助を待つ。</li> <li>エレベーター内に防災備品が設置されている場合は、<b>内容品を活用</b>し救助を待つ。</li> </ol> 
地下階	<ol style="list-style-type: none"> <li>揺れがおさまるまで、壁や柱に身を寄せ、カバンや上着等で頭を保護する。</li> <li>火災発生時は商業施設等と同様</li> </ol> 

(3) 屋外での安全確保

区 分	行 動
道路上	<ol style="list-style-type: none"> <li>カバンや上着等で頭を保護しながら、<b>広い場所へ移動</b>する。</li> <li><b>商業地域</b>では看板やガラス破片等の落下物に注意し、速やかに離れる。</li> <li><b>住宅地</b>では転倒の可能性があるブロック塀、自動販売機等から速やかに離れる。</li> </ol> 
運転中	<ol style="list-style-type: none"> <li>徐行後、道路の<b>左側</b>に<b>停車</b>し<b>エンジン停止</b></li> <li>揺れがおさまるまで、<b>車外に出ない</b>でラジオ、携帯電話等で情報収集する。</li> <li>車を放置して避難せざるを得ない場合は、<b>ドアをロックせず、キーを付けたまま</b>にする。</li> </ol> 
公共交通機関での移動中	<ol style="list-style-type: none"> <li>急停車に備え、<b>つり革</b>や<b>手すり</b>につかまる。</li> <li>網棚の荷物落下に備え、カバンや上着等で<b>頭を保護</b>する。</li> <li>乗務員の指示に従って行動する。 (勝手に降りない。)</li> </ol> 

### 3 地震直後

区 分	行 動
火災発生	1 非常ベル、鳴り物を使用するか <b>大声で「火災」と叫びながら</b> 、周囲に周知し助力を求め、 <b>消火器等で消火</b> する。 2 付近に消火器がない場合は、 <b>座布団等でたたか</b> 、 <b>密閉して消火</b> する。 3 炎が天井近くに達する等、消火が困難な場合は、避難する。 
ライフラインの安全確認	1 ガス・水道 (1) ガス・水道は安全確認できるまで <b>使用を控え</b> 、 <b>ガス栓・水道栓を閉める</b> 。 (2) ガス漏れや強い揺れを検知すると安全装置により自動的に停止するため、マイコンメータの操作要領を確認しておく。(赤ランプ点滅はガス漏れの可能性大) 2 停電時 (1) 通電火災防止のため、家電の <b>コンセントを抜く</b> か、 <b>ブレーカーを落とす</b> 。 (2) 通電時まで <b>家電や配線の破損状況</b> を確認する。 3 トイレ 配水管の状況が確認できるまで使用せず、 <b>簡易トイレ</b> を使用する。  感震センサー 
情報収集	出水市ホームページ「気象情報」を参照 
安否確認	1 <b>災害用伝言サービス</b> の活用 2 出水市ホームページ「その他、平時に確認しておきたい情報」の「自主防災活動」の「災害伝言サービスの活用方法」を参照
避難行動	1 慌てず、靴を履く。 水道管破裂等、外が <b>冠水</b> している場合は、 <b>長靴以外の靴</b> にする。 2 <b>非常持出品</b> を携行して避難する。 